



横浜市立谷本中学校 学校だより

やもと

「6月号」 令和元年6月27日発行

夏への扉

校長 高部 振司

「半夏生」(はんげしょうず)

夏至(今年は6月22日)から数えて11日目の7月3日から七夕頃までの5日間を「半夏生」といいます。

田植えは半夏生に入る前に終わらせるものとされ、この頃から梅雨明けとなります。

半夏生の半夏は「烏柄杓」(からすびしゃく)という薬草のことで、この草が生える時期を表す名称とされています。地下茎の皮をとり乾燥したものが漢方薬「半夏」。

半夏生の5日間はいろいろな言い伝えから働くことを避け、農作業等で疲れた体を休める時期でもありました。先人のすばらしい知恵を感じます。

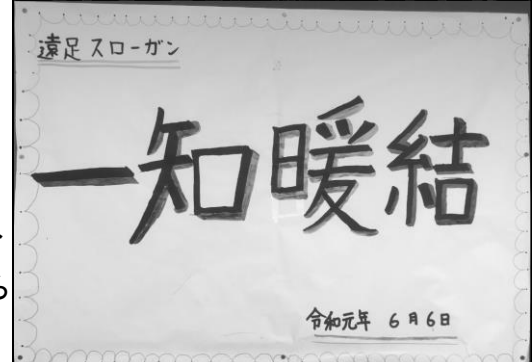
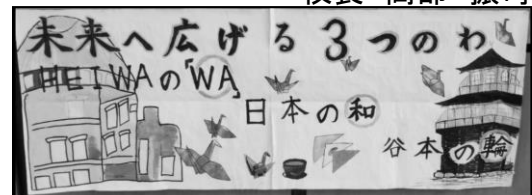
5月最終週には、2年生が自然教室。初日こそ、雨天でしたが、少しずつ好天に恵まれ、仲間と力を合わせ、充実した3日間となりました。集団の持つ明るさ、素直さ、のびやかさが随所に発揮された行事となりました。今後は自分で(自分たちで)考え、判断して行動することを心がけ、さらにすばらしい学年づくりに取り組んでください。

6月第一週には、1年生の遠足と3年の修学旅行。

1年生は、こどもの国が弾薬庫だった時代から現在の姿に至るまでの歩みを学び、当日はオリエンテーリング、バーベキューを通して学年の親睦を深めました。これからも暖かい空気を大切に。

3年生は、1日目の密度の高い広島平和学習にもしっかり取り組み、2日目の班別自主行動、3日目の学級別行動にも良い形で行なげました。若い今だからこそ積極的なチャレンジを意識、実践すること、チャレンジした結果、例え失敗があってもそれを糧にして欲しいことをお願いしました。

三学年共に、自分ができることを確実に実行するだけでなく、できることを広げていきましょう。もちろん時折、休憩することも大切に。これからも、みなさんのことを応援していきます。



各学年の行事のスローガン
上から三年、二年、一年
一番下は「修学旅行のしおり」表紙